



新型コロナウイルスの感染拡大に伴い緊急事態宣言が出された昨年4月と5月にガスこんろ火災が前年比で3割増えました。緊急事態宣言発令中は在宅時間が長くなることから、自宅での調理には注意が必要です。



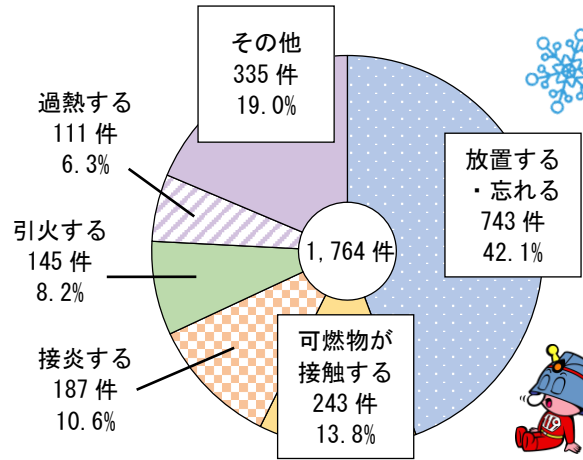
ガスこんろの火災 に気をつけよう！



～令和2年中は397件発生！（前年比52件増） 出火原因第1位！～
※東京消防庁管内数値（速報値）は建物内部から出火した火災件数になります。

出火原因TOP3 （最近5年間）

- 1位 **ガスこんろ** 1,764件
- 2位 **たばこ** 1,611件
- 3位 **放火(疑い含む)** 1,383件



ガスこんろの出火要因 （最近5年間）

火をつけたまま放置する・忘れる
が4割以上！

火災事例(使用放置)



使用済みの天ぷら油に、凝固剤を投入し中火で加熱したまま外出、時間経過とともに天ぷら油が過熱され出火したものです。

ガスこんろの 火災を防ぐポイント



- 調理中は**
その場から離れない。
- ガスこんろのまわりに**
燃えやすいものを
置かない。

裏面もご覧ください。

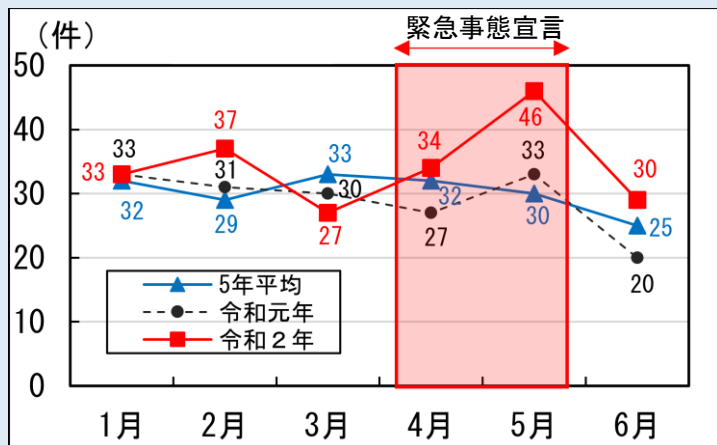




新型コロナウイルス感染拡大期間における火災



～自宅での調理機会が増えると、ガスこんろの火災が増える傾向にあります～



住宅のガスこんろ火災の推移

【実際に発生した事例】

事例1 テレワーク中にガスこんろを使用し、火を消し忘れたため火災となった。

事例2 飲み会をオンラインで実施していたところ、調理中であることを忘れて火災となった。

問合せ先 東京消防庁 狛江消防署

TEL:03-3480-0119



新型コロナウイルスの感染予防に関するお知らせ

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



(内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室HPより)